

## 静岡市総合教育会議 『保育現場の実情と障害児保育』

麻華 こども園  
園長 中原美華

保育園・こども園では、保護者の就労のため保育に欠ける子ども達をお預かりしています。当園は、2，3号認定児（保育園）90人 1号認定児（幼稚園）9人 定員99名、現在99名の生後3か月から5歳児の子どもをお預かりしています。

入所時には気づかなかった障害特性が成長過程でその傾向がみられ、自閉症スペクトラム、広汎性発達障害等の診断がついた子どもが8名在籍しており、静岡市より補助金をいただいて運営をしています。

園児の中には、診断がついていないけれど個別に配慮が必要な子もいますが、そんな園児も他の子どもと同じように生活して保育をしています。このような園児は以前にも数名いましたが、最近ではその人数が年々増えてきており、保育現場は混乱して悲鳴を上げています。

## 当園での人数の実態

R5、12、1現在

年齢クラス	在籍数	診断名がついている園児	診断はついていないが配慮の必要な子
0歳児	7人	0人	0人
1歳児	16人	0人	0人
2歳児	15人	1人	1人
3歳児	19人	2人	1人
4歳児	20人	1人	2人
5歳児	21人	4人	1人

実際、保育現場ではこんなことが起こっています。

○園児21人担当保育士2人、5歳児クラスの例です。

生活発表会に向け合奏の練習をしていました。聴覚過敏のある自閉症の子どもは大きな音が鳴る場所に入れず、担当保育士がつき指導をしていました。

もう一人の保育士が残りの20人の練習をしていると、突然カスタネットを投げ捨て怒り出した子がいました。保育士がその子に指導していると、残りの19人の指導ができずにその日は終わってしまいました。

そのことを保護者に伝えると、特に問題意識を持ってもらえなかったことがありました。

○園児20人 担当保育士2人の4歳児の例です。

はさみを使う制作活動を行っていました。けがをしないように、はさみの使い方を説明し活動していると、やりたいけどできないもどかしさからイライラしはじめ、はさみを投げてしまう子がいました。全体指導をする保育士、障害のある子に個別配慮する保育士、危険のないように配慮をしながら進めていたのですが全員にまで手が回らず、他の友達に危害を及ぶ可能性もあり、とても危険な場面でした。

職員は通常保育の研修に加え、障害に関する研修会に参加したり巡回指導の先生にアドバイスをいただいたりして、障害のある子やそうでない子、クラスのこども全員に対して指導が行き届くようにと日々奮闘しておりますが、それには限界があります。

現在の職員配置基準では、4・5歳児30人に対して職員1人となっておりますが、とても指導ができる配置ではないため、当園では20人に対して2人配置し、さらに大変な時は主任保育士や保育補助者がフォローをして何とかしのいでいるのが実情です。

国の配置基準	
歳児	子ども人数 対 職員数
0歳児	3人 対 1人
1歳児 2歳児	6人 対 1人
3歳児	20人 対 1人
4歳児 5歳児	30人 対 1人

私たちの仕事は子どものことだけでなく、保護者を支援する役割もあります。子どもの成長を一緒に見守る保護者の中には、自分の子に障害があることを受け入れることに抵抗があったり、その事実には傷ついたりします。そんな保護者に対応するのは担任保育士だけではなく主任保育士、園長が長い時間をかけて寄り添いながら対応しています。

しかし、保護者の価値観も多様化しており、子どもの問題行動を保育士の指導不足だと指摘されたり対応が納得いかず喧嘩ごしに転園されたりと保護者対応にも苦慮しており、その度に保育士も傷つき疲弊しています。

保育園こども園は、集団の中で一人ひとりの発達のパースに合わせ支援し、障害のある子もない子も全員の成長を育んでいく場でもあります。

平成29年に保育指針、教育保育要録が変わり「主体的な保育」が求められ、就学前に育てたい10の姿（自立心・協調性・社会生活との関わり・言葉による伝えあい豊かな感性と表現 等）が示されました。保育園・こども園は、子ども達が小学校へ行っても十分がんばれる力をつけるために、より一層質の高い保育が求められていますが、今の現状ではとても難しい状況となっております。

以上が、当園だけのことでなくどの園にもいえる保育園こども園現場の現状です。